

## 三保でギンカクラゲやルリガイなどの漂着を確認

文：高山壽彦、写真提供：土居采翔（東海大学学生）

2025年10月1日、2日、三保真崎海岸で東海大学の学生が、ギンカクラゲ（刺胞動物門ヒドロ虫綱花クラゲ目ギンカクラゲ科）や、ルリガイ・アサガオガイ（軟体動物門腹足綱新生腹足目アサガオガイ科）の漂着個体を採集された。

ギンカクラゲは、栄養個虫、生殖個虫、触手個虫といった様々な機能に分化した多数の個虫からなる群体動物である。アサガオガイの仲間は、浮游性の巻貝であり、ギンカクラゲや、カツオノカンムリ、カツオノエボシを捕食する。

多くの巻貝が底生動物であるが、アサガオガイの仲間の巻貝は終生、浮游生活を行い、足の裏から分泌する粘液で気泡をつくり、それを連結して“筏”として、それにぶら下がるようにして、海面を浮游する。ギンカクラゲも、アサガオガイの仲間も、海水温の高い水域を好み、黒潮や対馬暖流に乗って、列島の沿岸に達する。

ギンカクラゲや、カツオノカンムリ、カツオノエボシといった水母類や、浮游性の巻貝の仲間は、海面を漂うような浮游生活のため、海が荒れた際には、海岸に打ち上げられてしまう。



東海大学学生が採集したアサガオガイ  
10月1日、三保真崎海岸



東海大学学生が採集したルリガイ  
10月1日、三保真崎海岸



2025年9月23日、三保真崎海岸でギンカクラゲが大量に漂着